


日本のまんなかでアートをさげんでみる

【前期】2024年3月16日[土]ー6月12日[水]

■ 出品作品

 撮影 NG マークの作品をのぞき、
写真撮影が可能です。

* マークの作品は裏面に解説があります。

1

イサム ノグチ

「レディミラー」

亜鉛メッキ、鋼

1983 年

149.2 x 43.2 x 43.2 cm

2-3

ルイザ ランブリ

「無題 (ブランリーブルシリーズ) #3」

「無題 (ブランリーブルシリーズ) #2」

写真

1997 年

各 102 x 72 cm

4* 

ロバート メイプルソープ

「レディライオン #5」

写真

1980-1982 年

48.5 x 38.5 cm

5-8* 

ロバート メイプルソープ

「レディライオン #1」

「レディライオン #4」

「レディライオン #3」

「レディライオン #2」

写真

1980-1982 年

各 38.5 x 38.5 cm

9*

林登科 (りんでんけ)

「藻魚図」ーそうぎよず

二幅 | 紙本墨画

清時代 道光元年 (1821 年)

10*

「角力図屏風」ーすもうずびょうぶ

六曲一双 | 紙本金地著色

江戸時代 (19 世紀)

11*

雪村 (せつそん)

「列子御風図」ーれつしぎよふうず

一幅 | 紙本墨画

室町時代 (16 世紀後期)

12*

狩野探幽 (かのうたんゆう)

「蛤蜊観音図」ーこうりかんのんず

一幅 | 絹本淡彩

江戸時代 (17 世紀前期)

13

須田 悦弘

「水仙」

木に彩色

1999 年

14.5 x 33 cm

14

岸駒 (がんく)

「寒山拾得之図」ーかんざんじつとくのず

一幅 | 絹本墨画淡彩

江戸時代

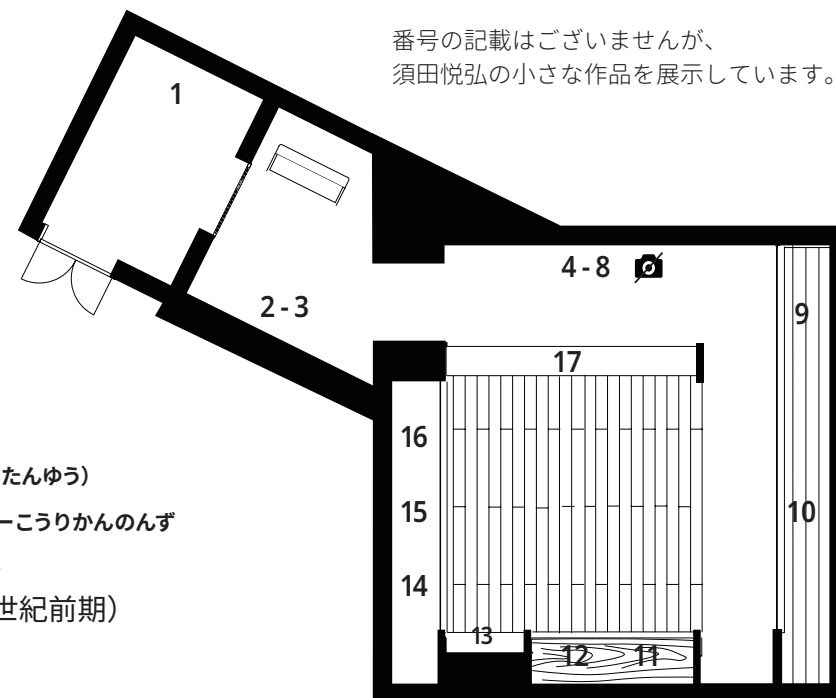
15*

「仏涅槃図」ーぶつねはんず

一幅 | 絹本著色

桃山時代 (16 世紀)

番号の記載はございませんが、
須田悦弘の小さな作品を展示しています。



16

長沢 蘆雪 (ながさわろせつ)

「群雀図」ーぐんじゃくず

一幅 | 絹本墨画淡彩

江戸時代 (18 世紀後期)

17

ジェイソン テラオカ

「隣人」

紙にアクリル、インク、接着剤

2006 年

各 20 x 16 cm

(88 点組のうち 33 点)

■ 作品解説

4-8. ロバート メイプルソープ (1946-1989)

1970年代初頭から写真を手がけ、1977年にはカッセルのドクメンタに出品。モチーフは花、静物、メール・ヌード、有名人ポートレート、セルフポートレートなど様々だが、精緻で透明感と緊張感に満ちた作品を制作。時にゲイを主題とした作品はスキャンダラスに取り上げられた。

本作は、1983年に出版された写真集『レディ リサ ライオン』のシリーズである。モデルであるリサ ライオンは、1979年の第1回世界ボディビルディング選手権大会で優勝し一躍有名になった人物。この写真集はリサ ライオンとメイプルソープの2年間にわたるフォトセッションによって完成したものである。彼女の肉体はそれまでの男性のためのポルノとしての女性ヌードと全く異なるものであり、特殊な趣味としての筋肉愛好家が好むようなボディビル写真とも異なっていて、1970年代後半にメイプルソープが力を注いだSM写真とおなじように肉体の存在を強調するものであった。1988年にホイットニー美術館で初の回顧展が開かれたが、その翌年にエイズにより死去。

9. 林登科「藻魚図」二幅 清時代 道光元年 (1821年)

藻魚は中国で古くから好んで描かれた画題。魚はめでたいものであり、豊かさや子孫繁栄、科挙 (かきよ、中国で古くから行われた官僚登用試験) 合格、出世などの象徴として広く描き継がれてきた。また、何ものにもとらわれない自由の境地を魚に託して描く「魚楽図」の伝統があり、文人の画題の一つでもあった。本図は職業画家が描いたというには稚拙な表現で、素人が手すさびに描いたものと推測される作品。謹直な画風であるが、魚の形態や空間にとらわれない表現はおおらかで、楽しさが感じられる。

10. 「角力図屏風」六曲一双 江戸時代 (19世紀)

屋外の土俵での相撲の取組みとそれを観戦する人々の姿が描かれている。まわしを引きつけて相手の体を持ち上げる力士、吊り出されまいと相手の首に食い込むほど腕をまわして片足を絡みつける力士。両者の土俵際での熱い攻防が捉えられている。観衆のなかには、力が入り、口元をへの字にする者、一方、取組みには目もくれず、何やらヒソヒソ話をする者たちもいる。芝居がかった独特な仕草の人物

描写は、人々の息づかいを感じさせる。また、華やかな色彩による細密描写も印象的である。細かく丁寧に描いた着物の文様、毛髪1本1本まで精緻に描いたヘアスタイルなど、江戸初期の風俗を生き生きと伝えている。

11. 雪村「列子御風図」一幅 室町時代 (16世紀)

列子は中国・戦国時代の道家の一人で、風を意のままに操ることができたと伝えられる仙人。自分が風に乗っているのか風になったのか、その境地を窺わせる表情で天空を浮遊する姿が描かれている。一見すると平板な印象を受ける画面だが、作品の見どころである風の表現に注目してほしい。あご髭や身にまとった衣、笹が右上方へなびいていることに気づくと、吹き抜ける風の動感が伝わってくる。さらに墨の濃淡を効かせた抑揚のある筆づかいと、独特の曲線から成る衣の形が、空間に豊かな動きをもたらしている。

本図は、雪村 (せつそん、生没年不詳) が小田原・鎌倉に滞在していた50代後半に描かれたと考えられる作品である。雪村は、雪舟 (せつしゅう、1420-1506頃) を慕いながら、独自の画風を切り拓いた個性豊かな画家として注目されている。

12. 狩野探幽「蛤蜊観音図」一幅 江戸時代 (17世紀)

海に浮かぶ大きな貝から姿を現す白衣をまとった観音菩薩が描かれている。蛤蜊観音は、日本では近世以降に信仰された三十三観音 (人間の求めに応じてさまざまに姿を変える観音) の一つの姿である。大蛤は蟹 (しん) ともいい、気を吐いて蟹気楼をつくり出すと考えられていた。この言い伝えが発展して、蛤から美人が現れる図や観音が現れる図が描かれるようになった。また、蛤を好んだ文宗帝 (ぶんそうてい、808-840) がこれを食べようとしたところ観音が現れた、との伝承による図でもある。

15. 「仏涅槃図」一幅 桃山時代 (16世紀)

本図は、仏伝の一場面である釈迦の涅槃の様子を色彩鮮やかに描かれている。縦長の画面の下半部に釈迦の横たわる宝台とそれを取り囲む会衆を描き、その手前には、象・獅子をはじめ多数の動物を集める。画面上半部には、波を大きくうねらせる跋提河 (ぼつだいが) を背景に大きく天空を描き、釈迦の生母である麻耶夫人 (まやぶにん) が地上に降りてくる場面を表している。